

手軽に基礎体温を測れる温度計を作った

みやじま まさこ
宮島 正子 さん(59)

ひと

テレビ電話を通じて、カメラの向こうにいる視覚障害者に手紙や書類を読んであげるサービスをIT会社で手がけていた。8年前。顧客の中に、毎朝測ったばかりの基礎体温計をカメラに向ける女性がいた。

テレビ電話を通じて、尊敬を持って生きる意志を見た。「誰でも簡単に使える基礎体温計を作ろう」と決めた。基礎体温は女性ホルモンの働きを示し、継続して測れば体調管理に役立つ。とはいえ、多くの女性は面倒くささからなかなか続かない。まずは「毎朝、口の中で測る必要があるか」という疑問に取り組んだ。

朝や口の中でなくてもよいとわかり、寝たまま腹部で測るソフトを開発したが、大手企業は見向きもしなかった。「もうからなくてもやらねば」。IT会社を手放し、2年前から社員4人の新会社で開発に専念した。下着に挟んで睡眠中に測る卵形の温度計を5月、世に出す。

長く勤めた電話サービス会社から独立してIT会社を作る際、視覚障害者の後輩が気がかりで誘った。「女性の雇用を」という故郷の熱意に打たれ、事業にとっては不利な面もある長野県に会社を置き続ける。

1と4歳の孫娘が4人。「息の長い商品に育てて、健康に対する女性の意識を変えたい。人生最後の大仕事です」。計測値を音声に変換して知らせる仕組み作りが次の目標だ。

文・岡崎明子 写真・速藤啓生

